

Rugby for ALL

すべての人が楽しめるラグビー環境をつくらう！



ラグビーは、身体が大きい人や小さい人、足が速い人や力が強い人など、さまざまな特性をもった選手が活躍できるポジションがあります。また、日本代表やジャパンラグビーリーグワンのチームは、出身国や人種、言葉や文化が異なる選手が集まり、One Teamとなって相手に立ち向かいます。

ラグビーという競技の根幹には、「ダイバーシティ（多様性）& インクルージョン（包摂性）」があります。2019年に行われたラグビーワールドカップ日本大会や現在のリーグワンの試合を通して、このようなラグビーの魅力が多くの人に発信されました。

すべての人がより安心してラグビーを楽しめる環境をともにつくっていくために、知っておくべきこと／できることを一緒に考えてみましょう！

© ジャパンラグビーリーグワン

性のあり方は人それぞれ

4つの要素から性のあり方を考えることができます。

好きになる人の性 | 性的指向: Sexual Orientation

恋愛感情や性的関心がどの性別に向くかということ。
恋愛感情や性的関心を抱かない人もいます。

こころの性 | 性自認: Gender Identity

自分の性別をどのように認識しているかということ。

表現したい性 | 性別表現: Gender Expression

言葉遣いや服装、振る舞いなどを通して、自分が表現したい性別。

身体構造における性的特徴 | Sex Characteristics

性に関するからだの特徴。

性的指向 (Sexual Orientation)、性自認 (Gender Identity)、性別表現 (Gender Expression) の頭文字を取って「SOGIE (ソジー)」といいます。
※ここに身体構造における性的特徴 (Sex Characteristics) を含めて「SOGIESC (ソジースク)」といわれることもあります。

エル・ジー・ビー・ディー・キュー・プラス

LGBTQ+ ってなに？

性的少数者の人々を総称してLGBTQ+の人たちと呼ぶことがあります。LGBTQは下の5つの言葉の頭文字からきています。日本には約10人に1人が性的少数者であるといわれています。

L レズビアン | Lesbian
こころの性が女性または女性であることにつながりを感じる人で、女性に魅力を感じる人

G ゲイ | Gay
こころの性が男性または男性であることにつながりを感じる人で、男性に魅力を感じる人

B バイセクシュアル | Bisexual
2つ以上の性別に魅力を感じる人

T トランスジェンダー | Transgender
こころの性が生まれた時につけられた性別とちがう人

Q クエスチョニング | Questioning
誰を好きになるか(ならないか)や自分がどんな性別なのかを決められない、分らない、あえて決めない人

※クィア (Queer) のQともいわれます。こころの性や好きになる人の性が非典型的で多数派ではない人のことをいいます。※LGBTQ+だけに収まらない性の多様性をプラス (+) で表現しています。

ラグビー界で Allyの輪 広げよう！

誰もがラグビーを楽しめる環境づくりのために、
Allyとして、今日からできる4つのアクションに
取り組んでみましょう！

1 必ず身近にLGBTQ+の当事者がいることを理解する

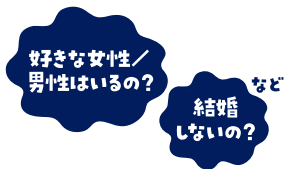
身近にLGBTQ+の人たちは必ずいることを知っておきましょう。テレビなどでよく聞く「ホモ」「おかま」「レズ」などは差別的な用語なので、使わないようにしましょう。

2 自分自身の無意識の偏見に気づく

どんな性のあり方も大切にされなければなりません。「男らしさ」「女らしさ」で人をあてはめたり「恋愛することが当たり前」「異性愛だけが恋愛の形」と決めつける言動はやめましょう。

日常でよくある 気をつけたい発言の例

恋愛することや異性愛であること、
結婚や出産を前提とした質問



外見で性別を判断したり、
個人の表現を馬鹿にしたような発言



3 アウティングを絶対しない

本人の許可なく、性自認や性的指向を周囲に伝えてしまうことを「アウティング」といいます。特に、チームメイトや指導者との関係性が大切なスポーツにおいては、アウティングによって、チームにいらなくなってしまうことがあります。

4 アライであることを宣言し、アライとして行動する

6色レインボーのマークを身に着けることはアライであることの表明になります。LGBTQ+の人たちを傷つける言葉を聞いた時は「その発言が良くない」と伝える、話題を変える、LGBTQ+の人たちの気持ちに寄り添うなどの行動をとることで、LGBTQ+の人たちが安心できる空間をつくることができます。

コラム スポーツ界におけるLGBTQ+の人たちの経験

伝統的な「男らしさ」が賞賛され、異性愛が当然であるという文化とともに発展してきたスポーツ界において、LGBTQ+の人たちはさまざまな困難に直面しています。「男性」と「女性」に分かれて競技するスポーツの文化の中で、安心・安全にスポーツを楽しむ機会を奪われてきた人たちもいます。



スポーツに関わったLGBTQ+の人たちで差別的な
発言を聞いたことがある人の割合（日本スポーツ協会調査）



スポーツの現場で同性愛者を嫌悪する発言を耳に
したことがある人の割合（アウト・オン・ザ・フィールド調査）

また、LGBTQ+ユースは、LGBTQ+ではないユースと比較して、体育の授業においてポジティブな気持ちを抱きづらく、スポーツが自分らしくいられる手段になりにくい傾向にあります（プライドハウス東京調査）。



むらかみ あいり

村上 愛梨 さん

ラグビー選手（15人制）／元ラグビー女子日本代表／
LGBTQ+当事者アスリート

「私はスポーツをする中で、自分の“好き”を否定されてきた経験があります。しかし、ラグビーを始めたことで自分らしくなれる居場所ができました。今、自分らしくいられないと感じていても、それはずっとは続きません。日本のスポーツ界はまだ、自分を隠さないといけないと感じてしまう場所ではありますが、ラグビー界から日本スポーツ界へ良い機運をつくっていきけるように、ラグビーファミリーの皆さんにこそ、LGBTQ+のことを知り、理解を深め、情報をアップデートしてほしいのです。」

NTTグループ（以下、NTT）、一般社団法人ジャパンラグビーリーグワン（以下、JRLO）、NPO法人プライドハウス東京（以下、PHT）は、ラグビーを通じて、性自認や性的指向、性別表現に関わらずすべての人がありのままで活躍できるLGBTQ+インクルーシブな社会を目指し、セクターを超えた協働をしています。

2019	
SEP	● 日本ラグビーフットボール選手会と協定書を締結 ● ラグビー国際大会の開催に合わせて、東京・原宿の「SubaCO」にて「プライドハウス東京2019」を期間限定でオープン
OCT	● 国際ゲイラグビー（International Gay Rugby）と日本チームの交流戦をサポート
2021	
APR	● NTTがプライドハウス東京コンソーシアムに参画 ● 村上愛梨選手のメディアを通じたカミングアウトをサポート
JUN	● ラグビー 15人制男子日本代表戦にてLGBTQ+の情報発信ブースを設置
JUL	● Allyイベント PHTとNTTでの共同ワークショップを開催
NOV	● NTTがJRLOのタイトルパートナーに就任
2023	
MAR	● JRFU*及びJRLOの役職員を対象にLGBTQ+研修を実施
APR	● 3者によるプロジェクトを発足。ラグビー界におけるLGBTQ+に関する啓発・理解促進のための企画について協議
JUN	● NTT研究所スタッフによるウェルビーイングカードを用いて、3者で交流
JUL	● NTTとJRLOでウェルビーイング・イベント開催
AUG	● JRLOに加盟するクラブから2名の選手がアライアスリート研修を修了
DEC	● PHT、JRLO、JRFUが包括協定を締結
2024	
MAY	● NTT、JRLO、PHTが協働でLGBTQ+に関する情報発信のためのリーフレットを作成。NTTリーグワン2023-24プレーオフトーナメントの決勝戦の会場で配布するとともに、LGBTQ+の情報発信ブースを設置。

※「公益財団法人日本ラグビーフットボール協会」



プライドハウス東京とは 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、LGBTQ+に関する理解を広げることを目指し立ち上がったプロジェクト。NPOや個人、企業がコンソーシアムとなり、個別のテーマに基づき8つのチームに分かれて活動しています。「アスリート発信チーム」では、LGBTQ+とスポーツの接点から誰も排除しないLGBTQ+インクルーシブなスポーツ環境づくりと、スポーツを通じたLGBTQ+に関する情報発信を行っています。

プライドハウス東京が制作するLGBTQ+に関する各種ハンドブックは、こちらよりご覧いただけます。

<https://pridehouse.jp/handbook/>

